

海外メディアの中国素描—その③

2013年 1月

山本利久

今回は中国の医療制度改革を中心にしたテーマ（昨年9月）に加え、証券市場を取り上げた外国メディアの記事を新たに紹介、若干のコメントを付けまとめた。中国理解の一助になれば幸いである。

中国の医療制度改革

2012年 9月

—英雄は敢えて境界を越える—

山本利久

これは The Economist(2012/7/21)を要約したもので、二編から構成されている。

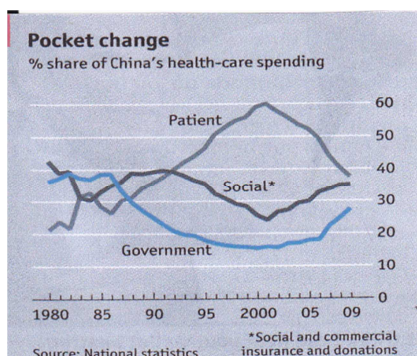
二つの論文が中国の医療制度の危機を検証する。最初に中国ではどの様に請求書を支払うかを見たもの。

中国の衛生相、Chen Zhu(陳竺)は国の機能不全に陥った医療制度を改革する新たな迫及に大変鼓舞されたことから、詩を書いた。”風と雷が國中を疾風、医療改革が善き潮流を齎す”、と衛生部の新聞の表紙に忠順に印刷された賛歌の詩は始まる。しかし陳氏の楽観論を共有する人は少ない。中国の医療制度改革の直近の段階は、病院と医師達が医薬品販売への金銭的依存を終了するよう要請されるため、改革が困難であることを立証する状況にある。そして風と雷がよき潮流を掻き消してしまうようになるだろう。

中国の市場改革が1978年に始まった時、医薬品使用者料金が急騰した。患者負担の医療費全体に占める比率は1978年の20%から2001年の粗60%へと上昇した。かつて負担の多くを担った国有企業は崩壊、2000年WHOは健康保険制度への拠出金の公正性の面で、中国を191カ国中下から4番目にランク付けした。そして健康保険は中国の最も深刻な社会問題の一つになってしまった。その後患者負担の割合は政府が問題と対峙し始めたため、下がった。それでも最近の改革は制度の抜本的見直しに向け加速化した運動の一部に過ぎない(図1参照)。

改革は2009年、今後3年間に1200億ドル超を支出する公約と共に本格的に始まった。これら資金は新コミュニティー・医療センターと、そこに職員を配置するための研修に注入され、そして1億7200万人以上の中国人が補助金が出る保険制度に加盟することを可能にした。2003年の3分の1以下だった状況から脱し、2011年末までに市民の95%が何らかの保険に加盟する様になった（尤も英国のジャーナル、ランセットの最近の研究で、”悲惨な”医療費負担を被る家計の割合は2003年と2011年の間で殆ど変化しなかったことが分かったけれども）。

これらの対策は医療サービスに関する国民の抱く不満の根本的原因の解消には殆ど役立た



なかった：病院は薬を売ること、職員に給料を支払はなければならないのが現実だ。北京大のゴードン・リュウは、病院収入の凡そ 40%がこうした薬の販売によるもので、その他 40-50%が検診・治療のようなサービスから成り立っている、と述べる。そして 10%以下が政府から直接支払われる。6月25日、衛生部は中国の 2000 以上の県の内 311 に対し、病院から薬品販売を切り離す実験に着手するよう訓示した。

図 1 出所：The Economist(2012/7/21)

7月、北京友誼病院(ソ連の贈り物として建立された)と南部の都市深圳の全ての公立病院を含む大規模都市の少数の病院がこれに参加した。国務院直属の通信社、新華社は、これら病院は、中国の全面的医療制度改革の”最も大胆且つ困難な部門に着手した、と述べた。

友誼病院のロビーの横断幕と掲示板はこの変化を次の様に書いている：薬価の上乗せ(通常病院は 15%までの上乗せを認められている)若しくは検診料の全面廃止、そして登録料の全廃。代わって新しい料金が”医療サービス”に対して導入された。これは画期的なことだ。中国の医師は通常、西洋諸国の同僚や中国の民間部門の専門医に比べると、極小額の数百ドル程度が月給として支給される。多くの中国の病院では薬の販売によって、彼等の収入が埋め合わされると見られている。友誼病院では新料金がこのギャップを埋めることになる。患者は様々の違ったタイプの医師の中から、つまり 42 元(6.60 ドル)の”普通”医から、100 元もする”有名な専門医”の診療まで選択出来るようになった。

その趣意は医師が、患者が保険に加入していようがまいが、身動きならない経費負担に導く過剰な処方と検診へのインセンティブを失うことにある。(ランセットの別な最近の調査によると、2010 年現在、保険に掛かっている人は尚、外来患者費用の 60-70%、入院患者治療費の半分以上を負担しなければならなかった。)

友誼病院の料金表は、保険は新医療サービス料金の 40 元までカバーするとある。それは”普通の”医師の診療に対しては僅か 2 元の現金払いを意味している。病院の薬局では薬の新旧価格一覧表が巨大な電子板に次から次へと映し出される。それはまるで株価の直近値が更新されて行くのに似ている：セフトリアクソン(抗生物質薬)；65.69 から 57.13 へ。ヒルドイドクリーム(挫傷用)；31.52 から 27.41 へ。

しかし少なからぬ患者は懐疑的だ。65 歳になる或る女性は、昨年様々な病気治療のため、保険に加入していたにも拘わらず、1 万元(1570 ドル)を自分のポケット・マネーから払わなければならないと、話す。その額は 5 カ月分の年金に相当した。彼女は、新制度は現

行より安くならないだろう、と心配している。彼女の複雑な病状は単なる普通の医師以上の治療が不可欠で、何人かの別の専門医に診てもらう必要がありそうだ。彼女は、薬局は必ずしも常に彼女が必要とする薬を備えていない、と言う。その結果彼女は政府が弁済する薬品リストにはない薬を使用するよう強制されることになる。

公式メディアは、薬価の値下げが今年、病院の約 200 万元の収入減となる、と報じている。政府は、この損失をカバーすることを約束した、とメディアは付け加えた。しかし多くの専門家は、医師と病院の経営者達は改革に関して疑念を抱くと確信している。医師は薬品販売から受ける直接的恩恵ばかりでなく、薬品を貯蔵し、それを処方する際薬品メーカーから受けるキックバックも失うリスクがあるのだ。

北京大の Lui 氏はこの”灰色収入”は医師の公式サラリー乃至は薬品販売の上乗せ分から得る収入を遥かに凌ぐ額に達する、と計算する。これは不正なので、官僚たちはそれを改革に組み込むため苦労している。しかし彼等は、他の多くの政府関係者も同様に賃上げを要求することを恐れて、医師の給料拡充に躊躇している。

石を感じて川を渡る

より低いレベルの病院に於ける”医薬分業”(hospital and medicine separation) の様々な試みは勇気を鼓舞するものではなかった。北京周辺の Hebei(河北省)政府の研究者により行われた調査は、病院の経営者達は地方政府が薬品販売からの収入減の埋め合わせを行わなくなるため、病院が運営費をカバーすることが益々困難になるのでは、と心配していることを突き止めた。”公立病院での改革支持表明”は冷めたもので活気に欠ける、とこの報告書は述べた。政府による財政支援の明確な保証がなければ、医師の疑念は抗し難く、そして改革の成功は困難になるだろう、と報告書は述べた。

中国社会科学院の Zhu Hengpeng が指摘するように、これまで選出された 311 県の進捗状況は、より規模の大きな改革が如何に行われるべきかについての明確な指標を提供することにはならないだろう。医師達は、政府が損失を埋め合わせることに意欲を欠く、最貧県で多くの悩を抱えることになるだろう。しかし官僚たちは来年遅くに県レベルでの改革を全国的に拡大する意向、と言う。計画は全ての公立病院が 2015 年までに実践するとしている。(改革推進派は医療改革の責任者、Li Keqiang(李克強)が来年首相になることが粗確実視されていることに歓喜している。) “深いよどみは恐れるものは何もない”、と詩人の陳衛生相は書いた。”英雄は敢えて渡る”。

コメント：

- ① 医薬分業はかつて日本でも大きな社会問題となった。その実現には関係者の積年に亘る利害調整の努力と多くの時間を要した。中国はそれ以前の問題も多々あり、先進国に見られるような医薬分業の実現はかなり先になりそうだ。

医師への暴行：心なき襲撃

2012年9月

山本利久

—医療関係者はその専門性に対する怒りが増える中、恐怖を感じている—

これは The Economist(2012/7/21)を要約し、若干のコメントを付けたものである。

中国の医療関係者への襲撃事件の急増で、医師や看護婦は病院が益々危険な場所だと感じている。衛生部の数字によると、病院とその関係者を狙った 17,000 件以上の”事件”が 2010 年に発生した。5 年前は約 10,000 件であった。英国で発行される医療雑誌、ランセット (Lancet)は、最近の論説で、”中国の医師達は危険な状態にある”、とぶっきらぼうに警告した。

3 月 23 日、北部のハルピンで若い男が、迅速な治療を受けなかったことを不満として、4 人の病院従業員を刺し、一人を殺した。衛生部の通達は、以後全ての医療機関に対し、一層の安全対策を求めた。しかし 4 月 13 日、北京の医師が刺され、そして 5 月 12 日には、看護婦が Nanjing(南京)で襲われた。

昨年夏には本格的な乱闘事件が南部の都市、Nanchang(南昌市)の病院のアナトリウムで、病院スタッフ、家族、手術台上で死亡した患者の友人を巻き込んで発生した。100 人以上の病院スタッフが自衛のため、棍棒と神経麻痺剤の入った缶を持ち出した、と言う。

医療擁護者は、抗争の多くは患者の家族によって、多発する誤った治療の場合に、より多くの弁償を請求しようと、引き起こされている、と言う(時々彼等は兇漢を支援のため雇う)。治療費や薬代、そして腐敗に関する憤慨もある。都市部でさえ、多くの医師は、月高々 5,000 元(780 ドル)の収入だけで、患者を診たり或いはオペを行う際に追加料金を徴収することで、それを補足している。他の医師は患者に必要な無い検査したり、収入を上げるため高価な薬を処方する。7 月 18 日衛生部は、医療関係者によるこうした行為を明確に禁止する新たな規則を発令した。

3 月のハルピン殺人事件後、人民日報は、オンライン調査の悩ましい結果を報じた。調査に協力した 6,161 人の凡そ 3 分の 2 に当たる人々は、それが医療関係者に対するものであったことから、襲撃に満足した、と語った。この報道は直ちに引き下げられたが、しかしそれは小さなブロガー達とそのスクリーンを救済し、オンラインに転載した後だった。

ハルピンの医師が刺され死亡した時、ネット市民は殺害者を称えた、と北京にある北京大第 1 病院の医師で、26 歳の Liang Yingcong は話す。”何か社会に悪いことがある”、と彼は付け加える。

医療スタッフが対処法を見つけ出した。北京の煌びやかで、近代的な Chaoyang 病院(朝阳医院)の廊下に立ち、一人の看護婦が、”我々は言葉による攻撃には応えない、ただそれがより深刻にならないよう祈るのみ”、と話す。そばにいた同僚の医師は、病院には予備の警察官はいない、と心配する。”はい、私は恐ろしいです”、しかし”一体我々に何が出来るのですか”と話す。

4月20日一人の元患者が北京の Tongren(同仁)病院で、手術のやり損いから外科医を刺した罪で15年の懲役刑の判決を受けた。しかし刑務所は襲撃事件の発生を阻止出来ないように見える。役人達は健康保険制度の改革が、この様な殺傷事件防止の支援になるのでは、と期待している。

コメント：

- ① 痛ましい事件の報道だが、長期にわたり高度経済成長を続ける中国社会が必要とする構造改革の必要性を、一方で強く求めている様に思われる。それは治療を提供する側、享受する側、双方に於いてだ。程度の差はあるが、我が国でも医師と患者間に、最低限必要な情報の共有、意志疎通、信頼が確立しているとは言い切れない点も多い。
- ② 国民医療保険制度のあり方を巡っては、昨年行われた米国の大統領選でも一大論争を巻き起こした。尚国民的合意形成が出来ていない分野である。
中国での医師の処遇は先進国の基準から見ると、社会的責任・義務に対して、報酬が限定的な様に見えるのだが。そこには”医は仁なり”、とする東洋的倫理観を求める社会的風習が今でも根強く残っているようにも見える。医師への合理的処遇をどのように考えるか、改革が求められる中国社会の大きな課題であろう。
- ③ この問題は医療保険制度とも深く関わっている。中国でも広く社会保障制度の一環として捉えることになる。混合診療を含めて、日本の現行制度や懸案となっている改革案もいろいろな面で参考になる。

中国の株式市場：1999年に類似

2013年 1月

山本利久

これは The Economist(2012/10/12)に掲載された表題の要約である。昨年11月に作成した原稿に若干の加筆を行い今回まとめてみた。香港市場とよく対比される上海市場だが多少なりとも参考になれば幸いである。

世界で最もダイナミックな展開を見せる経済だが何故この様な瀕死の株式市場となっているのか？

中国の株式市場は、未だ世界最速の成長経済を続ける国の一つに位置している。昨年その市場が中国のより強力な政策集団の一翼の下に置かれることになった：昨年10月、郭樹清氏が中国证券监督管理委员会＝証監会(CSRC)主席に任命されたのだ。しかし彼の着任以降、市場は14%以上下落した。

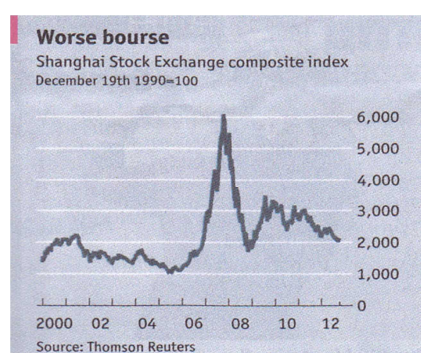


図1

中国の株式市場は確かに改革の必要性に迫られている。市場は昨年企業が調達した資金の僅か3.4%を提供するに留まり、誠に貧弱な資金供給源であった。市場は、中国の経済成長に肖りたいと願う投資家に対し、経済上の十分な代理人としての役割を果たしてこなかった。凡そこの20年間、政治的に優遇された企業が、適正水準を越える価格で上場を果たし、外部(外国投資家を含む)から資金を調達、それをインサイダーに再配分してきた。これら取引は獺官市場となり、本来あるべき株式市場ではなかった。

しかし、不満を抱く投資家達は、そうした努力は”全て雷であって、雨は一向に降らない”、と言う。CSRCは常に改革を語っているが、市場はさっぱり改善しない、と或る投資家はオンラインCSRCフォーラムで苦情を漏らした。

中国の株式市場は確かに改革の必要性に迫られている。市場は昨年企業が調達した資金の僅か3.4%を提供するに留まり、誠に貧弱な資金供給源であった。市場は、中国の経済成長に肖りたいと願う投資家に対し、経済上の十分な代理人としての役割を果たしてこなかった。凡そこの20年間、政治的に優遇された企業が、適正水準を越える価格で上場を果たし、外部(外国投資家を含む)から資金を調達、それをインサイダーに再配分してきた。これら取引は獺官市場となり、本来あるべき株式市場ではなかった。

“中国の株式市場は現実にはマネー(金融機関から提供される)の市場ではない”、と中国の金融市場に関する本”赤い資本主義”の中で、2011年F. HowieとC. Walterの両氏は書いた；つまり市場は権力である。

郭氏は、市場における企業のスマート化と共に、株式を買う投資家教育に取り組んでいる。

2012年の前半、CSRCはインサイダー取引と不正行為に対し、前年より70%以上多い180件の捜査を行った。不正行為の証を立証することによって、中国の最高裁と検察当局は郭氏の努力を応援してきた。CSRC幹部の一人は、彼等が虎を翼で武装した、と語った。

CSRCはIPO(株式の新規公開)時の価格形成についてもより積極的に介入している。昨年株式を新規公開した或る企業がその新株を株価収益率の47倍で売り出した。取引初日に株を購入した半数以上の投資家は3カ月以内に損失を出してしまった、と郭氏は言う。現在、企業は、どの様にそれを評価したかを説明する責任を求められている。株価収益率(PER)が同業他社の25%を上回って新規公開する企業は、その評価額を再考しなければならない。より健全な企業に門戸を開くと同様に、郭氏は不健全な企業には退場を迫ろうとしている。これまで中国の上場廃止規定はルーズに解釈され、そして適用が緩かった。純資産がマイナスであったり或いは1000万元(\$1.6m)以下の営業利益しかない企業は、今では3年以内に上場廃止になる、とCSRCは公約している。

上場企業がその行動をきちんとした場合、取引を行う投資家はどうなるのであろうか？市場に、より洗練された投資資金を呼び込むため、CSRCは外国投資家が投資できる額を300億ドルから800億ドルに増額し、その上投資家資格を緩和した。彼等外国投資家は中国の株式市場に落ち着きを齎すだろうが、しかし800億ドルでも、それは粗2兆6000億ドルの上場株式を有する市場規模から見れば、ほんの一滴に過ぎない。従って多くは国内投資家に依存せざるを得ない。

郭氏は投資家教育に信頼を寄せた。彼は控え目なPERを持つ優良株式への長期投資を奨励しながら、敢えて自己の信念を吐露した。(彼の発言以降、優良株は8%下落した。)

投資価値を求めて

この種の投資が市場で全く行われていない、と言う訳ではない。山東省烟台市の海岸の町の一人の小さな投資家は、兄弟に説得され2005年に初めて株式(中国のDuctile Iron Pipe)を購入した。今や彼は、自分の投資しようとする株を徹底的に調べ、”勤労意欲が高く、従業員的面倒をよく見て、評判も良く、そして一度も損失を出したことのない、控え目な会社を探している。”この種の価格ではなくて、”価値”の上昇を期待して投資することが段々広がりつつある、と彼は言う。しかしそれは正式な投資家教育に因ると言うより、寧ろファイナンシャル・ブログや痛みを伴ったこれまでの体験の影響をより多く受けていることに因るようだ。

郭氏の最大の課題は、人々を彼の好みの投資方式に誘おうとするのではなく、市場の上下動から監督管理者を一定の距離を置こうしていることだ。”米国のSECが市場指数が何処にあるべきかを定めることを誰も期待していない、”とHowie氏は語る。不幸にして、中国政府は過去、市場へ余りにも大きな影響を及ぼし過ぎてきた。そして今その手を解き放そうと尽力している。4行への政府の出資を引き上げたと言うニュースが9月26日以降市場の反騰を惹起した。

自らの立場を守るため、郭氏は今年の大半は、中国経済自体が上手く行かなかったという

単純な理由から、市場が振るわなかったのだ、と弁明出来るだろう。市場は経済のより良い鏡だが、今の経済は過去のそれとは異なっている。

コメント

- ① 中国の代表的株価指数である上海総合指数が、ダイナミックに成長・拡大し、世界の注目を集める中国経済の実態を反映することなく、近年低迷する傾向に多くの一般投資家が、何故と疑問を持って不思議ではない。そこには様々な透明性を欠く市場機能の存在が見え隠れする。そうした疑問にこの記事が相当程度の解説を行っている点で貴重な存在、と言えよう。ここではその後の展開(反転)を含めてコメントを書いてみた。
- ② 中国では様々な分野で構造改革の必要性が問われているが、証券市場もその一つ。世界に通用する株式市場に成長するため、市場の透明性・情報開示など監督・管理面でも、郭氏の努力は今後とも継続されなければならない。
- ③ 日経新聞夕刊(2013/1/15)によると、証監会の郭主席は1月14日、外国投資家に対する証券市場への投資枠を現行の10倍に拡大する考えを明らかにした。この発言を受け、同日の上海市場で株価が急伸した。外国人による株式や債券への投資を規制するため、中国政府は自らが認めた投資家にもみ限られた売買枠を与えている。従って日本などの個人投資家は直接中国株に投資が出来ず、認定された証券会社などの一部金融機関の運用する投資信託など(ETF)を経由することになる。
- ④ 上海株の動向；以下日経夕(2013/1/8)《アジア・新興国 NOW 土居倫之》からの引用
上海総合指数は昨年12月3日に付けた3年11ヶ月ぶりの安値(1959)から17%上昇している。中国政府が都市部のインフラ整備を推進する方針を表明したのが直接の原因(中国共産党と政府が12月中旬の中央経済工作会議で、13年の経済政策の基本方針の中で決定)。

それまでの株価低迷に危機感を強めた中国証監会の打ち出した株価てこ入れ策：

- * 1月1日から個人の株式配当課税について、長期保有の優遇策を導入。
- * 中国企業の国外上場の規制の緩和(新規上場を国外市場に誘導することで国内市場の株式需給悪化懸念を緩和する狙い)。



図2 出所；日経夕(2013/1/13)

図3 出所；同(2012/12)

図4 出所；同(2013/1/22)

- ⑤ 昨年12月初めまで低迷を続けた上海市場とは対照的に、市場としての機能が国際水準にある香港市場に上場された中国本土企業で構成するH株指数が、一足早く昨年9月初めから上昇基調だ(図3)。9月5日に年初来安値の9020を付けた後、現在まで(12月

中旬)約 25%上昇した。日経によると、中国景気の回復期待と、金融緩和による香港市場への投資資金の流入が追い風となっている。H 株指数は中国の国有大企業などの香港ドル建て株式 40 銘柄で構成されている。上海株式市場が外国人の投資を制限しているため、グローバルな投資家が中国株を売買する際、これら H 株が対象となり易い。

- ⑥ IT 関連の産業で世界の注目を集めるのがスマートフォンだ。韓国のサムソン等が市場をリードしているが、中国企業の存在感も益々高まってきた。米調査会社の IDC がまとめた 2012 年第 4 四半期のスマートフォンの出荷動向によると、中国の華為技術(ファーウェイ)が出荷台数を 9 割近く伸ばし、世界シェアで初めて 3 位に入った。期間中の出荷台数シェアは 1 位サムソンで 6370 万台(前年同期比 76%増)、2 位アップルで 4780 万台(同 29.2%増)、3 位華為技術で 1080 万台(同 89.5%増)となっている(日経タ・2013/1/26)。残念ながら日本メーカーはスマホの主要部品の供給者の地位に留まっている。

(丁)